

# デーヴォ ガイド



2026.3.9-15

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

21:23 それからイエスが宮に入って教えておられると、祭司長たちや民の長老たちがイエスのもとに来て言った。「何の権威によって、これらのことをしているのですか。だれがあなたにその権威を授けたのですか。」

21:24 イエスは彼らに答えられた。「わたしも一言尋ねましょう。それにあなたがたが答えるなら、わたしも、何の権威によってこれらのことをしているのか言ひましょう。

21:25 ヨハネのバプテスマは、どこから来たものですか。天からですか、それとも人からですか。」すると彼らは論じ合った。「もし天からと言えば、それならなぜヨハネを信じなかったのかと言うだろう。

21:26 だが、もし人から出たと言えば、群衆が怖い。彼らはみなヨハネを預言者と思っているのだから。」

21:27 そこで彼らはイエスに「分かりません」と答えた。イエスもまた、彼らにこう言われた。「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに言ひません。

21:28 ところで、あなたがたはどう思いますか。ある人に息子が二人いた。その人は兄のところに来て、『子よ、今日、ぶどう園に行って働いてくれ』と言った。

21:29 兄は『行きたくありません』と答えたが、後になって思い直し、出かけて行った。

21:30 その人は弟のところに来て、同じように言った。弟は『行きます、お父さん』と答えたが、行かなかった。

21:31 二人のうちのどちらが父の願ったとおりにしたでしょうか。」彼らは言った。「兄

です。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言ひます。取税人たちや遊女たちが、あなたがたより先に神の国に入ります。

21:32 なぜなら、ヨハネがあなたがたのところに来て義の道を示したのに、あなたがたは信じず、取税人たちや遊女たちは信じたからです。あなたがたはそれを見ても、後で思い直して信じることをしませんでした。

イエス様が自分の保身よりも神の真理と人の救いを優先させたのに対し、パリサイ人たちは自己保身を考えていたことが分かります。ここに人の権威というもののあり方が明確になります。この世の権威は結局は人も左右されるのです。

そこでイエス様は、表面的な信仰態度と実際的な信仰態度の違いを明らかにされました。「行きたくありません」と言うのは、取税人や遊女ということになり、「行きます」と言って行かなかったのはパリサイ人ということになります。

ことばでは信仰深いようには言わなくても、行動で主に従うならば、それは信仰ということができますが、逆にどんなに信仰深いことを言っても、実際の従いがなければ、パリサイ人と同じであるのだということに刻みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 10日 火曜

### マタイ



21:33 もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がいた。彼はぶどう園を造って垣根を巡らし、その中に踏み場を掘り、見張りやぐらを建て、それを農夫たちに貸して旅に出た。

21:34 収穫の時が近づいたので、主人は自分の収穫を受け取ろうとして、農夫たちのところにもべたちを遣わした。

21:35 ところが、農夫たちはそのしもべたちを捕らえて、一人を打ちたたき、一人を殺し、一人を石打ちにした。

21:36 主人は、前よりも多くの、別のしもべたちを再び遣わしたが、農夫たちは彼らにも同じようにした。

21:37 その後、主人は『私の息子なら敬ってくれるだろう』と言って、息子を彼らのところに遣わした。

21:38 すると農夫たちは、その息子を見て、『あれは跡取りだ。さあ、あれを殺して、あれの相続財産を手に入れよう』と話し合った。

21:39 そして彼を捕らえ、ぶどう園の外に放り出して殺してしまった。

21:40 ぶどう園の主人が帰って来たら、その農夫たちをどうするでしょうか。」

21:41 彼らはイエスに言った。「その悪者どもを情け容赦なく滅ぼして、そのぶどう園を、収穫の時が来れば収穫を納める別の農夫たちに貸すでしょう。」

21:42 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書に次のようにあるのを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なこと

だ。』

21:43 ですから、わたしは言うておきます。神の国はあなたがたから取り去られ、神の国の実を結ぶ民に与えられます。

21:44 また、この石の上に落ちる人は粉々に碎かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を押しつぶします。」

21:45 祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスのこれらのたとえを聞いたとき、自分たちについて話しておられることに気づいた。

21:46 それでイエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者と認めていたからである。

神様がイスラエル民族に、律法を与えて神の国のために生きることを委ねたのに、預言者を迫害し、また御子イエスまでも十字架に付けた叛逆に対して、さばきが当然であることが明かにされています。

イスラエルに律法が与えられたのは、同じように全人類も、律法を守りきれずに罪を犯すことを明かにするためです。確かに全ての人は、神様から自由意志を与えられているのに、それを不従順のために働かせてしまいました。私たちもイスラエル人と一緒なのです。

「神の国はあなたがたから取り去られ、神の国の実を結ぶ国民に与えられます。」とありますから、私たちは実を結ぶものとなりましょう。今日も何か、神の国のために行きをして、良い実を結びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 11日 水曜

### マタイ

22:1 イエスは彼らに対し、再びたとえをもって話された。  
22:2 「天の御国は、自分の息子のために、結婚の披露宴を催した王にたとえることができます。  
22:3 王は披露宴に招待した客を呼びにしもべたちを遣わしたが、彼らは来ようとしなかった。  
22:4 それで再び、次のように言って別のしもべたちを遣わした。『招待した客にこう言いなさい。「私は食事を用意しました。私の雄牛や肥えた家畜を屠り、何もかも整いました。どうぞ披露宴においでください」と。』  
22:5 ところが彼らは気にもかけず、ある者は自分の畑に、別の者は自分の商売に出て行き、  
22:6 残りの者たちは、王のしもべたちを捕まえて侮辱し、殺してしまいました。  
22:7 王は怒って軍隊を送り、その人殺しどもを滅ぼして、彼らの町を焼き払った。  
22:8 それから王はしもべたちに言った。『披露宴の用意はできているが、招待した人たちはふさわしくなかった。  
22:9 だから大通りに行って、出会った人をみな披露宴に招きなさい。』  
22:10 しもべたちは通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った人をみな集めたので、披露宴は客でいっぱいになった。  
22:11 王が客たちを見ようとして入って来ると、そこに婚禮の礼服を着ていない人が一人いた。  
22:12 王はその人に言った。『友よ。どうして婚禮の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。』しかし、彼は黙っていた。



22:13 そこで、王は召使いたちに言った。  
『この男の手足を縛って、外の暗闇に放り出せ。この男はそこで泣いて歯ざりすることになる。』  
22:14 招かれる人は多いが、選ばれる人は少ないのです。』

神様がイスラエル民族を招いたのは、律法をただ守らせるためだけの、堅苦しい生き方をさせるためではありませんでした。それは「結婚の披露宴」のような、喜びへの招きだったのです。しかし、イスラエルはその神様を軽んじて、応じませんでした。

そこで誰でもすなわち異邦人でも招いてくださったのです。すなわち十字架による全人類の救いです。しかし、婚禮の席にふさわしくない者があるように、神の国にもふさわしくない者がいます。それは、礼服のように義の衣を着ていない者です。信仰による義認のない者です。

「招かれる者は多いが、選ばれる者は少ないのです。」とイエス様が言われるように、誰でも救いに招かれています。それに応答して救いを得る人は少ないということです。

私たちが救われているということは、本当に貴重な貴重なことであるということ、改めて心しましょう。そして感謝し、救われている者の勝利の人生を歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 12日 木曜

### マタイ



22:15 そのころ、パリサイ人たちは出て来て、どのようにしてイエスをことばの罠にかけようかと相談した。

22:16 彼らは自分の弟子たちを、ヘロデ党の者たちと一緒にイエスのもとに遣わして、こう言った。「先生。私たちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれにも遠慮しない方だと知っております。あなたは人の顔色を見ないからです。

22:17 ですから、どう思われるか、お聞かせください。カエサルに税金を納めることは律法にかなっているのでしょうか、いないのでしょうか。」

22:18 イエスは彼らの悪意を見抜いて言われた。「なぜわたしを試すのですか、偽善者たち。

22:19 税として納めるお金を見せなさい。」そこで彼らはデナリ銀貨をイエスのもとに持って来た。

22:20 イエスは彼らに言われた。「これはだれの肖像と銘ですか。」

22:21 彼らは「カエサルのです」と言った。そのときイエスは言われた。「それなら、カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」

22:22 彼らはこれを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。

カエサルとは政治的な権力者であり、また社会の秩序を与える者でもあります。しかし同時に侵略者であり、圧政者でもありますから、反感もあったのです。政治や社会の権力とはいつの時代にもこのようなもので、不完全でありつつ必要なものでもあるのです。

ですからイエス様はカエサルの権威を認めても、

批判されるでしょうし、カエサルを認めなくても批判されたでしょう。どちらを取るか…。

しかし神の国の真理は別のところにありました。この世の権力と神の権威とは次元がまったく違うのです。つまり、この世の秩序を守りながらも、神の権威に従って生きることができるのです。

「カエサルのもの」と「神のもの」とは次元が違うように、私たちもこの世の秩序を守りながら、誠実な社会人として生きながら、神様に全面的に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 13日 金曜

### マタイ



22:23 その日、復活はないと言っているサドカイ人たちが、イエスのところに来て質問した。

22:24 「先生。モーセは、『もしある人が、子がないままで死んだなら、その弟は兄の妻と結婚して、兄のために子孫を起こさなければならぬ』と言いました。

22:25 ところで、私たちの間に七人の兄弟がいました。長男は結婚しましたが死にました。子がいなかったため、その妻を弟に残しました。

22:26 次男も三男も、そして七人までも同じようになりました。

22:27 そして最後に、その妻も死にました。

22:28 では復活の際、彼女は七人のうちのどれの妻になるのでしょうか。彼らはみな、彼女を妻にしたのですが。」

22:29 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは聖書も神の力も知らないで、思い違いをしています。

22:30 復活の時には人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。

22:31 死人の復活については、神があなたがたにこう語られたのを読んだことがないのですか。

22:32 『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。』神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。」

22:33 群衆はこれを聞いて、イエスの教えに驚嘆した。

これもこの世と神の国とを同列に置いてしまっている質問です。復活を信じないサドカイ派ですから、このように地上で再婚している人は、天国では困る

だろうというのです。現代でも似たようなことを考える人もあるでしょう。

しかし神の国はこの世とは全く違います。夫婦は二人で一人前のように、その欠けを補う意味もありますが、天の御国ではみなが栄光の姿に変えられるのですから、その必要はないでしょう。また誰か一人を選んで愛さなければならないというのではなく、みな神の民であり完全な愛によって満たされているのです。以上は類推ではありませんが、結婚の喜びよりもはるかに大きな喜びで満たされているのが天の国です。

来るべき神の国の希望を思いながら、その希望に根ざした生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 14日 土曜

### マタイ



22:34 パリサイ人たちはイエスがサドカイ人たちを黙らせたと聞いて、一緒に集まった。  
22:35 そして彼らのうちの一人、律法の専門家がイエスを試そうとして尋ねた。  
22:36 「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」  
22:37 イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』  
22:38 これが、重要な第一の戒めです。  
22:39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。  
22:40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」  
22:41 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった。  
22:42 「あなたがたはキリストについてどう思いますか。彼はだれの子ですか。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」  
22:43 イエスは彼らに言われた。「それでは、どうしてダビデは御霊によってキリストを主と呼び、  
22:44 『主は、私の主に言われた。『あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで』』と言っているのですか。  
22:45 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」  
22:46 するとだれ一人、一言もイエスに答えられなかった。その日から、もうだれも、あえてイエスに質問しようとはしなかった。

イエス様こそが律法の本髄を理解している方であり、また救いの歴史を知っているお方です。そのイエス様について証しているのが聖書ですが、多くの人々はこの聖書と神に関して、パリサイ人やサドカイ人たちのように批判的な論争をしかけてきます。

この世の判断基準で論争しても、結局神の国はこの世のものではないので、かみ合うことはありません。イエス様も「あえて質問する者は」いなくなっても、さらにご自分から論争して勝つということとはなかったのです。

論争で神の国の真理を悟らせることはできません。ただ聖霊によるのです。論争で負けないことも大切ですが、それと同時に祈りによる聖霊の力大切なのです。

祈りつつ証をし、祈りつつ伝道しましょう。また誰かのミニストリーのために、聖霊が働かれるように祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 15日 日曜

### マタイ



23:1 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに語られた。

23:2 「律法学者たちやパリサイ人たちはモーセの座に着いています。

23:3 ですから、彼らがあなたがたに言うことはすべて実行し、守りなさい。しかし、彼らの行いをまねてはいけません。彼らは言うだけで実行しないからです。

23:4 また彼らは、重くて負いきれない荷を束ねて人々の肩に載せるが、それを動かすのに自分は指一本貸そうともしません。

23:5 彼らがしている行いはすべて人に見せるためです。彼らは聖句を入れる小箱を大きくしたり、衣の房を長くしたりするのです。

23:6 宴会では上座を、会堂では上席を好み、

23:7 広場であいさつされること、人々から先生と呼ばれることが好きです。

23:8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません。あなたがたの教師はただ一人で、あなたがたはみな兄弟だからです。

23:9 あなたがたは地上で、だれかを自分たちの父と呼んではいけません。あなたがたの父はただ一人、天におられる父だけです。

23:10 また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただ一人、キリストだけです。

23:11 あなたがたのうちで一番偉い者は皆に仕える者になりなさい。

23:12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。

律法は正しいものですが、人を救う力はありません。むしろその権威を生み出し、権威者が価値あるものとなってしまいます。神学も同じような面がありますから、注意しなくてはなりません。神以外の

ものが権威となつのは危険です。

パリサイ人はそのように律法の権威でしたが、行いはイエス様が言われる通り、「まねては」いけないものでした。

しかしイエス様は、客観的にその教えは正しいことを認めておられました。パリサイ人のさばきについて、イエス様は明言しておられますから、彼らの生き方が間違っていることは確かです。

このように正しいことを言う人が正しいのではなく、正しく行う人が正しいのです。また間違った行いの人が言う内容も正しいことがありますから、私たちは個人の感情ではなく、神の真理に照らして考える必要があります。

ここに書かれているような面が自分にはないかどうか、吟味してみましょう。もしも合ったなら、神様に告白して、価値観を正しいものにするように、祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

